

HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1992. 11. 62号

各組ご消息披露で決意

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、総合復興計画に関する組ご消息披露が各組で実施されているが、十月三十一日までに予定の約半分を終了した。

出石組は正福寺で

日には、出石組のご消息披露が、出石組正福寺で行われた。式典ではご消息伝達、法話などが行われ、推進のつどいでは、建設・推進委員会長の土基教務所長が、組画変更での機構の整備、御同朋総結集大会での基幹



推進のつどいで決意表明

12月に

大谷コレクション 京都展

京都新聞社を中心とした「旅順博物館展実行委員会」では、日中国交正常化二十周年を記念して、中国・大連市旅順区の旅順博物館に所蔵する大谷コレクションから約百点の考古学品を戦後初めて日本で公開する。十二月十二日から来年一月十日まで開催の京都展(於京都文化博物館)について詳細が同実行委員会から各寺院宛に案内される予定。



世の中には、殊にわが社には「酒好き」「酒呑み」の仁が沢山おられる。酒は涙か溜息か心の憂きの捨てどころ。営業的に見て酒造会社では意欲的に斯道奨励と見えるのに、どっこいそうではない。そうなる。大手メーカーの某ビールが出した小冊子「生活科学」にはこうある。◆(イ)・(ビール大ビン)一本目が最高に旨い。(ロ)・一本半でほろ酔い加減(ルンルン気分)。(ハ)・二本目になるとそろそろ自分が立派だと感じはじめる(平常心が遠くなる)。(ニ)・三、四本となると過去の苦楽をテーマに相手構わず談じ込む(水源池は満タン)。(ホ)・五本目こらで止まれば二日酔いにならない(ドクターストップ)。(ヘ)・これ以上から千鳥足でロレッツが回らなくなる。(ト)・十本目で自分の居場所や位置が分からなくなる(未完成の泥酔状態)だからヤケ酒は万病のもとと結んでいる◆薬あればとて毒好むべからず。老らくのひとときは程々に。枯れ木に花を咲かせますか。酒呑童子(本川智暁)

教区たより 11・12月

7日(土) 第一土曜仏教講座 浄原法蔵師 1時半	27日(水)~29日(金) 神戸別院報恩講 盛晃證師 別院
7日(土)~8日(日) 仏青連盟中央研修 山科別院	12月2日(水)~3日(木) 豊岡教堂報恩講 豊岡教堂
10日(火)~12日(木) 教区相談員中央研修会 山科別院	4日(金) 少年連盟役員会 2時半 近畿教誨師研修 難波別院
14日(土)~16日(月) 別院常例法座 増井浄見師 1時半	5日(土) 第一土曜仏教講座 中西智海師 1時半
15日(日) 教区仏社岡山大會 岡山南組西念寺	9日(水) 矯正教化連盟兵庫支部研修会 神戸少年鑑別所
江並教堂報恩講 江並教堂	10日(木) 近畿地区仏教婦人会大会 奈良
21日(土)~23日(月) 全国門徒総追悼法要(秋の法要) 本山	10日(水)~11日(金) 中央推進委員会総会・研修会 本山
25日(水) 愛生園・光明園報恩講 長島	



健在なり舞踊家千扇

この人「千扇」さんの登場を待っていた方も多いのではないのでしょうか。歌舞伎俳優の岩井半四郎さんに師事、昭和四十九年には二代目岩井千扇を襲名。現在は千扇流宗家として日



神戸東照善寺住職 杉本正義さん

本舞踊を指導。また、同五十四年秋にはビクター専属歌手として「時雨舟」でデビューしたことなどは新聞各紙で報道された。今回、久々の新曲「新真宗音頭」「神戸情け坂」などの新曲発表を機に、十一

も出たし、門徒さんや招待する施設の人たちも待っている。生かさせていただいている慶びを、私は私なりの方法で」と「千扇」さんこと杉本住職。「住職であることが原点で、踊りは私の伝道方法。お互いの行き来や体を動かして初めて打ち解け、ひとつの輪を作れる。勝手などきだけ年寄りぶらないで、やればできるといふことを見て欲しい。夢を持つことです」と思いを込めて語る。平安高校から龍谷大学にかけて応援団で鳴らした。うだが「応援の型を美しくするためにも踊りは必要だった」とか。「踊りを習うと姿勢、歩き方が違う。長い間の積み重ねで動きの線がきれいになる。登礼盤、焼香などの作法も美しくなりますよ。これも大切なこと」と舞踊家住職ならではのアドバイスも。「それぞれの分野で、自分の出し方で、みんなと合していったらいいのではないか」という杉本住職は、若い人を集めて親鸞聖人や蓮如上人の芝居をしてみたという夢を持ち、「千扇さん健在なり」というところを見せてくれた。芦屋市上宮川町10-12 (広報部)

敬 弔

池田賢達師(いけだ・けんじゅん) 赤穂南組誓教寺住職) 九月三十日、九十五才で往生。葬儀は十月一日、誓教寺で。「弘誓院釋賢達」昭和二十年から住職在職四十七年。龍谷大学予科・専門部講師、京女大専門部講師、龍大助教授を経て昭和三十六年、龍谷大学教授。真殿圓了師(まどの・えんりょう) 撰龍西組西園寺住職) 十月六日、八十一才で往生。葬儀は十月八日、西園寺で。「浄信院釋圓了」昭和四年から住職在職四十二年。亀川フサエさん(かめかわ・ふさえ) 高砂組光昭寺前々坊守) 十月十九日、九十六才で往生。葬儀は十月二十二日、光昭寺で。「香華院釋尼妙芳」。西脇正文師(にしわき・しょうぶん) 撰龍西組超念寺住職) 十月二十二日、六十五才で往生。葬儀は十月二十四日、超念寺で。「樹法院釋正文」。昭和二十五年から住職在職四十二年。教区教化指導主事、教務所、贊事を経て同朋運動本部員、伝道院部長、安居評議員、龍大総務局長等を務めた。

法友西脇正文法師を偲ぶ

久堀 弘義
(神戸湊組行願寺)



た京都の夜の町を思い出す。思えば彼とは三十数年のおつきあいである。特に、彼と山陰の菅原智徳師と私の教化活動に燃えたときのことはいまだに忘れることができない。私のクルマで三人が教区内各地を走りまわった。そのクルマの中の会話で彼から学んだことは大きい。

「よし、やりましょう」。昭和四十八年、伝道院の第一回任職課程が開かれる前の講師会議が終わったとき、情熱をこめた彼の言葉が聞こえた。その響きが私の胸にも強く伝わってきたときのことを忘れぬ。

彼は教化ということに情熱を燃やし続けた人であった。エネルギーな彼の風貌からは、こんなにも早く訃報を耳にするとは夢にも思わなかった。龍谷大学の瀬田学舎設立当時の龍大の総務局長という激職にも耐えてくれることを信じていた。

病を得て後も彼の情熱は衰えることがなかった。彼の誰にも負けない誠実さも加わったのであろう、教区に要職をも病を持つ身でありながら、透析の薬を持参しながら立派にこなしていたことは周知のことである。「まじめ西脇」という異名を持つてはいたが、融通のきかない堅物ではなかった。一緒に飲んでいても、これほど人を楽しませる人は珍しい。彼と一緒に歩いて

越後の聖跡を訪ねて

辻岡 武子
(高砂組教徳寺)

教区寺族婦人会主催の年一回の聞法旅行、平成四年度は三十二人で越後の聖跡と七不思議を訪ねての旅に十月五日〜七日。姫路から神戸別院に着き、結団式の後、再び車中の人となる。日本海の真つ青な荒波を見ながら朝食を済ませて、一度行きたいと念願の居多ヶ浜に到着。今は若い人達が荒波でサーフィンでも楽しんでるだろうと思いつつ、親鸞聖人様の時代は風雪、貧しさに耐え、この土地での生活は苦しかったでしょうに思えますと、私は胸が締めつけられ涙の出る思いでした。



国府別院で

居多ヶ浜を後にして国府別院へ到着。輪番さんの話によると、冬の夜は寝ていると床下の風で豊ごと持ち上げられるような、聖人様が流された上越市の草庵跡

に建てられた国府別院での起居は聞きしに勝る風雪との闘いだそうです。上越市国府付近と板倉町周辺に聖人様と恵信尼様の生活なされた跡が点々と残っているそうです。恵信尼様はこの地方の豪族三善為教の娘といわれ、晩年まで板倉町米増付近で暮らされた様子です。板倉町には恵信尼の墓と伝えられている

土地で草庵を建てられて毎日お念仏していらつしやっただと思うと、心の中に何かジーンとくるものを感じました。我が身を忘れて「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」。聖人様が毎日使われていた古い井戸がありました。

月岡温泉清風苑は大きなホテルで皆びつくり。宴会もたのしかったです。部屋に帰っても今日の旅で感動したことなど語らいで花が咲く。今日は昼も楽しかったし、夜の夢もまた楽しい。恵信尼様は「わらわは越後の山にございますけれど、寒さも雪もいとませぬ。必ずや殿に不自由はかけぬよう努めますので御安堵を」と申されたそうです。

聖人様と恵信尼様のおかげでこの尊い浄土真宗のみ教えに合わせさせていただき、お念仏を喜ぶ身に感謝させていただきます。帰りましたから、清風苑で食中毒の疑いがあり、私たちの参加者にも十人ほど軽い症状があったことを聞きました。清風苑から総務課長さん二人がお詫びに来られました。皆様もう落ち着かれましたでしょうか。楽しい旅でしたので、来年も参加したいと思えます。

HO 目録

◆9月25日 高砂組住職寺族同朋講座を教徳寺で。講師は西脇修師(揖龍西組超念寺) ◆27日 神戸中組住職寺族同朋講座を光尊寺で。講師は瑞穂光信師(阪神南組常念寺) ◆28日 総代ブロッケン研修を岡山南組源照寺で。講師は井上朋義師(加古川組正願寺)、藤栄行信師(淡路組宣徳寺)。本年度六会場の研修会を無事終了しました。 ◆同兵宗連とキリスト教団全国キャラバンとの交流学習会を別院で。日本キリスト教団部落解放センター十年の活動と取り組みの発表。同兵宗連十年の取り組み、各教団の活動の意見交換など ◆30日 建設・推進委員会財務部会を別院で。募財の取り組み、お扱い品、その他について ◆30日 10月1日 組巡教(朝来組・姫路東組、六十一号に既報) ◆1日 赤穂北組住職寺族同朋講座を慈眼寺で。講師は津川肇師(城崎組明元寺) ◆3日 第一土曜仏教講座を別院

で。講師は小玉教雄師(前本願寺研修部長)テーマは「ことばとしての浄土真宗」 ◆3日 4日 近畿ブロック仏青研修会を滋賀で。教区から十人が参加。華園孝昭師(滋賀教区蒲生下組善通寺)の講義とウォークラリー ◆第三連区門徒推進員研修会を和歌山で。教区から七人が参加。基調講義は西池哲俊中央相談員。活動内容発表では教区から中西正一氏が門徒推進員連絡協議会の活動について発表 ◆4日 大谷本廟で永代経開闢法要 ◆5日 神戸西組ご消息披露を長善寺で。「納骨所を作らないで、予算を縮小して建築できないか」という意見も ◆5日 7日 寺婦連盟研修旅行に二十七八人が参加。越後の聖跡を訪ねて新潟へ(別記) ◆7日 建設・推進委員会広報部会を別院で。納骨所パンフ、趣意書冊子作成について ◆別院仏婦永代経。講師は津川肇師。午前中は別院仏婦の会員さんたちが賑やかにお斎の準備 ◆岡山北組寺族婦人会から別院団参 ◆8日 神戸湊組ご消息披露を善照寺で。「葬儀場とお墓がメインであって教化センターは二の次のようにも思えるが」という意見も ◆9日 多紀組ご消息披露を光専寺で。「懇志とはどういう意味なのか。あまりにもきれいすぎて、負担金にしたらどうか」という意見も ◆12日 奈良教区三山組正覚寺から別院団参 ◆建設・推進三役会を別院で ◆13日 少年連盟役員会を別院で ◆西播常例打ち合わせ会に教務所長、担当者出席 ◆13日 15日 仏婦連連盟若婦人中央研修会を大谷本廟で。教区から二人が参加。総連盟では本年度から若婦人の養成にむけて、法座の実際や作法等の研鑽、各教区の若婦人活動状況の報告の場として中央研修会を開催することにになりました ◆14日 別院総代世話人会。本年度別院報恩講について ◆14日 16日 別院常例法座。講師は松田義孝師(赤穂北組慈眼寺) ◆16日 びっぴ推進部会を別院で。第五回びっぴ研修会の打ち合わせと、特別養護老人ホーム「ふじの里」での実践に

若婦人の集いに319人



ついて協議 ◆18日 第五回若婦人の集いを別院で。三百十九人が参加。午前中は谷川弘顕研修指導員の作法指導。午後は釈氏清子さん(阪神西組源光寺) 赤松君香さん(網干組政源寺)の讃歌指導の後、萩女子短期大学教授・河村とし子先生が「仏教婦人(若婦人)への願い」と題して講話。歎異抄との出会いを通して宗祖の赤裸々な告白に出会い、キリスト教の戒めを守ろうとして守れない自分であることに気付かされた先生は「聴聞を重ねるうちに、思いもかけずお念仏している自分の声を聞いたときが私とみ仏さまとの出会いでした」と自らの歩みを振り返りながら「本当の幸せになつていただきたい」とわかりやすくお話しされました。

二才の多恵ちゃんと一緒に参加した乾恵子さん(阪神東組西教寺)は「キリスト教のことを知った上で浄土真宗を深く味わっておられるのはすばらしい。嫁いで宗派が変わるということは多いですが、私も自分のものとして納得できるようにしっかりと聴聞したい」と話していた ◆18日 19日 名古屋別院本堂復興二十周年記念法要に教務所長出席 ◆19日 スカウト役員会を別院で ◆20日 少年連盟日曜学校指導者研修会を姫路中組光源寺で。講師は中田輝道師(安芸教区志和組長松寺副住職)。楽しいゲームの指導で和やかなムードのうちに行われた研修会だった。講演では中田師が日校運営の経験を通して、冗談半分のあざ笑いをやめるというルールの大切さを強調された。約五十人の参加があり、九月からの第二土曜休校を機に少年教化への熱意に燃えている人も多いようです ◆邑久光明園から大谷本廟へ納骨参拝 ◆氷上東組住職寺族同朋講座を照蓮寺で。講師は杉本昭典師(北

撰組光澤寺) ◆21日 氷上東組ご消息披露を照蓮寺で。門徒戸数の是正を求める意見も出された ◆22日 出石組ご消息披露を正福寺で。(一面に関連記事) ◆作用組住職寺族同朋講座を西蓮寺で。講師は川端正道師(岡山北組報恩寺) ◆23日 長島愛生園物語者追悼法要に教務所長出席 ◆24日 揖龍西組超念寺住職・西脇正文師の葬儀に教務所長参列、達書伝達 ◆青僧会開法大会、役員会を別院で ◆神明組ご消息披露を西明寺で。「各寺院の門徒に対するPRが不足である」という意見も ◆25日 岡山北組白道寺建立慶讃法要に教務所長出席、祝辞伝達。

法語カレンダー 申込みはお早く

例年、真宗教団連合から発行されております「法語カレンダー」(平成五年度版)を教務所でも取り扱っておりますので、電話かほかでご申し込み下さい。価格は一部百四十円です。残部僅かにつき、お早めに。

大谷本廟で開闢法要